

公益財団法人 松園尚己記念財団

My graduation 2022

## M.T

家具・調度品販売会社勤務

九州大学 共創学部卒

4年間の大学生活を通して、学業はもちろん、アルバイトやインターン、団体活動、友人たちとのコミュニケーションを通して学んだことが数多くあった。大学を卒業して3ヶ月が経ち、大学生活を懐かしく感じると共に、あの当時頑張っていた出来事を振り返りながら仕事を頑張っている。改めて自分が大学生活で得たものとこれからに向けての決意を述べていきたい。

まず学業では、多角的に物事を考える重要性和コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。「共創学部」という学部に所属していたこともあり、文理にとらわれることなく、自分が学びを深めたいことに対して様々な学問の知識を学ぶ機会が多くあった。この学部の特徴があったおかげで、1つの物事を様々な視点から俯瞰的に考えることでそれまでとは異なったものの見方や考え方ができるようになった。それに加えて、学部の学習形態がTBL(チーム型学修)中心だったこともあり、自分とは異なる意見や考え方に触れる機会も多く、異なる意見や考え方を持つ人々とお互いの主張に対して議論をする機会が数多くあった。この経験をしたことで、それまでに比べて人の意見に寛容になり、自分の意見や考えの伝え方、その後の話の進め方についても考えて議論を交わすことが多くなったと感じている。この2つの学びは、この学部に所属したからこそ得られたものだったと考える。学部に所属していた先生方も、専門分野が違っていただけからこそ、各立場のお話を聞き、一緒に意見交流を行うことが多かったのも大きな学びだった。

多角的に物事を考える重要性やコミュニケーションの大切さは、学業だけでなくアルバイトでも感じる場面は多かった。大学生活の中で、塾講師や飲食店での接客業、イベントスタッフ、事務作業など様々な業種を経験したこともあり、大学内では関わることはできない多くの方々と接することができた。中でも「対人」での業務に楽しさや充実感を感じる機会が多かったため、アルバイトでも人との接し方や伝え方、意見を尊重する重要性について考える機会も多く、自分を高めるきっかけになっていた。また、アルバイトを通して「自律」する難しさやお金を稼ぐことの大変さを学ぶこともできた。大学生活の中で、私から両親に対して金銭面での助けを求めたくないというプライドがあったため、自分で稼いだお金

で自分の生活をやりくりしていくことは大学入学時点で密かに決めていた。結果として、両親に私から金銭的なサポートを求めることなく4年間生活をする事ができた。この経験は社会人になった今でも、大きなアドバンテージと自信になっていると感じている。私にとってアルバイトは、人との交流や金銭的なことについて学ぶことのできた貴重な機会だった。

私は4月から小売業を行う会社の社員として働いている。まだまだ分からないことも多く、先輩方や一緒に働く周りの方に助けられて1日を終えることが多い。しかし日々学びがあり、人とのコミュニケーションが盛んなため、モチベーションを高く保ったまま業務を行うことができている。同期にも恵まれ、それぞれ違う配属先でありながらも意見を交わし、互いに高め合うような関係を築くこともできている。9月中まで研修が続くものの、10月からは本配属となるため、配属後に周囲から信頼される会社にとって必要な存在になれるよう頑張っていきたいと意気込んでいる。その目標に向けて研修に真剣に取り組み、失敗を恐れず、失敗から得られる学びを大切にして日々を過ごしていきたい。